

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300948号		
法人名	有限会社 辛 卯		
事業所名	グループホーム 和みの家		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 西大手町 8910-1 (電 話) 0994-40-7855		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月7日

## 【情報提供票より】 (21年9月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤16人 非常勤4人	常勤換算18人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

## (4) 利用者の概要 (9月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院	まつおか歯科医院
---------	-------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは市の中心地の一角に立地しており、周囲に大型スーパーやバスセンター・公園等があり、利便性に富んだ環境の中にある。職員の献身的な介護で、身体機能の維持と排泄の自立支援に成果が表れたり、本人ペースで生活リズム作りを支援し、笑顔と喜びの日々を過ごしている。入居者・職員共同で作成した貼り絵を地域の展示会に出品したり、中学生・地域のボランティアなどの来所もあり、入居者は地域との豊かな交流の中で安心して和やかに暮らしているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについては、年間の職員研修計画書を作成し、外部研修会や内部研修会などへ段階に応じて参加しており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行うことにより、職員間の共通認識が高まり、改善課題に取り組み、評価が活かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催されている。参加者より避難訓練時のヘルメットにヘッドライトを固定することや玄関に懐中電灯を常備しておくことなど意見やアドバイスをもらい、改善に取り組み、サービスの向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時に話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。出された要望等は話し合い運営に反映している。苦情対策委員会も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内会行事に参加したり、ホーム行事に地域住民の参加の呼びかけをしている。中学生の体験学習の受入れや地元住民の認知症についての相談に応じたり、ボランティアの受入れや、防災訓練時の地域住民の参加など、積極的に交流を行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人達との絆を重視した理念を、開設当初から作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、申し送り時に職員全員で唱和している。またミーティング時や日々の関わりの中で理念を確認し、共有に努め、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内会行事に参加したり、ホーム行事に地域住民の参加の呼びかけをしている。また中学生の体験学習の受け入れや地元住民の認知症について相談に応じたり、ボランティアの受入れ、防災訓練時の地域住民の参加など、交流を積極的に行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に自己評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会としてとらえている。自己評価を行うことにより、職員間の共通認識が高まり改善課題に取り組み、評価が活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的で開催されている。参加者より、避難訓練時のヘルメットにヘッドライトを固定することや玄関に懐中電灯を常備しておくことなど、意見やアドバイスをもらい改善に取り組み、サービスの向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、ホームの運営やケアサービスについて相談している。また市主催の夏祭りや文化祭・研修会に参加して、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や月次報告時に、心身の状況や暮らしぶり・職員紹介を行い、特に個別報告は細やかな報告をして、家族等に満足が得られている。金銭管理は出納帳で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に話す機会を作り、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心がけている。出された要望等は話し合いを行ない、運営に反映している。苦情対策委員会を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が継続できるケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には、職員体制を工夫し、不安がないように取り組んでいる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修計画を作成している。外部研修会に参加して研修報告を行い、共有に努めている。また内部研修会はミーティング時に課題を設けて研鑽をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡会が発足し、見学交流や情報交換の場が設けられている。また近隣の他事業所との交流も行われて、職員の意識の向上に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、自宅や介護事業所・病院等へ出向き、本人や家族と面談し、住環境を把握している。また見学や宿泊体験をしてもらい、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	カラオケ・工作・ぬり絵・新聞・読書・手紙を書くなどの、一人ひとりの得意とする事をしてもらう中で、見事な工作物やぬり絵の仕上がりに感動したり励まされながら、共に支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、心身の状況や言動や表情で察するように努めている。また特に重度の入居者や不安を抱えている方の訴えは、見逃さないように細心の注意を払い、把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と話し合い、意向やアイデアを反映しながら、心身の状況や関係者の要望をもとに、カンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。入居者の状態変化時や退院時は、その都度カンファレンスや評価を行い、見直しの計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。本人・家族等の要望に応じて病院受診・自宅訪問・面会家族の送迎等、必要な支援を柔軟にしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。また往診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制もあり、重度化や終末期に対して総合的な指針が作られており、職員も共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。また職員採用時に個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は一人ひとりのペースを大切にして、本人の体調に配慮しながら希望や状況に添えるように柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭き・料理の下ごしらえなど、一人ひとりのできることを職員と一緒にしながら、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できる。入浴は職員と利用者のコミュニケーション作りの一環として、貴重な時間との思いで入浴支援を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・料理の下ごしらえ・レクリエーション・新聞・読書・手紙書き・ぬり絵・工作等、一人ひとりの得意なことや好きな事に力を発揮している。散歩や花の観賞・水やり・外食など、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の健康状態や希望に応じて、散歩・買物・公園・木市・ドライブなどに出かけている。短時間でも戸外に出る機会を作り、閉じこもらない支援に努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。見守りや連携プレーで安全に自由な暮らしができるように、支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼・夜間を想定した防災訓練をしている。2ヵ月ごとに、自主防災訓練を行い、避難時は近隣住民の協力を戴くことや通報システムも完備されている。災害時の備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックや体重測定をしながら、一人ひとりの摂取量を把握している。身体状況に合わせて、トロミやキザミ食等を取り入れている。栄養バランスは栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は柔らかな採光と温度や換気などに配慮が行き届いている。ホールには季節行事の飾りつけや花が飾られて、家庭的で生活感あふれる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・時計・仏壇・家族写真・ラジオ等、馴染みの物が持ち込まれている。和・洋室の居室を居心地良く過ごせるように、それぞれ工夫している。		

※  は、重点項目。